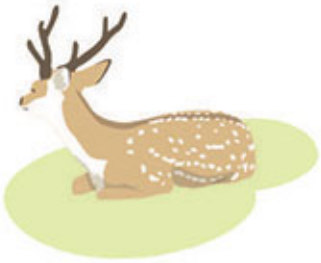
鹿のお話（後編）

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ　木下 卓也



猪（イノシシ）による被害といえば、そのほとんどが「農作物被害」または畦畔等の「農業施設被害」を指します。でも、鹿（シカ）は「農地」だけではなく「山林」にも被害を発生させます。広大な山林では人の目が届かず、被害は静かに始まり、気が付かないうちに広がります。シカが増えることで、どのような問題が発生するのでしょうか？

角研ぎの痕跡

①林業被害

シカは本来、平坦な土地で、草原と森林がある場所を好みます。そのため、山林を広く伐採し、開けた場所にすると、日当たりが良くなり、草が生えるので、絶好の生息場所になるのです。そこに植林しようものなら、幼木の葉や樹皮が食べられ、育たなくなってしまいます。ほかにも、前回お話しした袋角から固い角に変わるときに、角を樹木にこすりつけて袋を破る行動（角研ぎ）をします。その際に樹木に傷がつき、樹木が腐ったり、商品価値が下がったりします。

②下層植生の衰退

シカは地面に生えている草をどんどん食べていきます。シカの生息数が増えれば増えるほど、地面に近いところの植物が食べつくされてしまいます。このような状態を「下層植生の衰退」と言います。こうなると困ったことが起こってきます。

まず一つ目は、生物多様性の担保ができなくなるということです。山林内はシカの好む植物が食べつくされ、好まない植物だけが残り、偏った植生に変わってしまいます。無くなった植物をエサや隠れ場にしていたシカ以外の動物や虫たちが生息できなくなってしまい、さらに山林を以前とは違う姿に変えてしまうのです。

二つ目は、下層植生を食べつくし、さらに落ち葉まで食べてしまうと、地面が露出した状態になり、降った雨が表面を流れ出し、土壌流出が発生します。水の吸収が悪くなったこの状態では、地崩れの可能性が高くなり、非常に危険です。

下層植生の衰退

シカにとっては普通に生活しているだけなのですが、生息密度が高くなると、現在の生態系、ひいては私たちの暮らしを脅かす可能性のある動物なのです。イノシシと同様、シカについても、「寄せない・入れない・捕まえる」という3つの被害対策が有効ですが、まずは現況をしっかりと把握しなければいけませんので、**目撃情報を最寄りの役場または日野郡鳥獣被害対策協議会までお知らせください。**

問日野郡鳥獣被害対策協議会　電話：0859-72-1399

表紙写真

タ イ ト ル：心写す「大山」山麓
撮　影　者：日野町　松本 利秋 氏（写友会ひの）
撮影者コメント：霊峰大山（南壁）がそびえる江府町。町内どこからでも、その雄姿を見ることができますが、中でも御机集落にある山小屋と大山の景観は格別で、四季折々に美しく、そこに立つと心が洗われます。晩秋には、小屋に寄り添う柿が赤く実り、大山の峰がきわだって美しく見えます。この自然を大切に守っていきたいと思います。

編集発行：鳥取県西部総合事務所日野振興センター日野振興局　〒689-4503 鳥取県日野郡日野町根雨140-1
TEL 0859-72-0321㈹　FAX 0859-72-2072
E-mail hino-shinkou@pref.tottori.lg.jp　URL https://www.pref.tottori.lg.jp/hino-shinkoucenter/